

政策 03 快適な生活を支えるまちづくり

施策 02 快適に移動できる交通基盤の整備

あるべき姿

施策がめざす尾張旭市の姿
市内・市外への移動を円滑に行うことができます。

施策の成果状況と評価

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	市外への移動が円滑に行えると思う市民の割合 (%) 【都市計画課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対
		(H24)	(H29)	(H30)	(H30)	基準値
		89.1	89.3	87.3	90	☂ (低下)
評価	前年度に比べて2.0ポイント減少。まちづくりアンケートを年齢別に分析すると、車を利用する20歳～65歳はポイントが高く、免許返納等により移動手段が車以外となる場合の多い65歳以上の方は全体に比べ低い。また、名鉄瀬戸線沿線から遠い地区ほど低い割合を示しており、「市外への移動＝名鉄瀬戸線」というイメージもあると考えられる。					対 前年度

指標	市内の移動が円滑に行えると思う市民の割合 (%) 【都市計画課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対
		(H24)	(H29)	(H30)	(H30)	基準値
		85.7	85	83.2	87	☂ (低下)
評価	前年度に比べ1.8ポイント減少した。まちづくりアンケートを年齢別に分析すると高齢の方ほど、全体に比べポイントが低くなっている。これは免許返納によりマイカーによる移動ができなくなっていることも要因の一つと考えられる。					対 前年度

基本事業の成果状況と評価

基本事業01 公共交通による移動手段の確保

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	市内の移動に困っている市民の割合（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【都市計画課】	11.4	9.8	11.8	11	☔ (低下)
評価	前年度に比べ2.0ポイント上昇した。まちづくりアンケートを分析すると高齢の回答者ほど移動に困っていると回答している割合が高くなっている。年々、免許返納者が増えているが、そういった方への公共交通機関の周知が図られていないことが原因と考えられる。					対 前年度
						☔ (低下)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業02 駅・駅周辺施設の整備

指標	駅前広場の整備率（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【都市計画課】	75	75	75	75	☁ (横ばい)
評価	前年度の実績値に比べ、成果指標の変動はない。これは、三郷駅前広場の整備に向け、地元協議会とともに検討を進めているが、まだ整備着手に至っていないことが要因である。					対 前年度
						☁ (横ばい)
						目 標 達 成 度
						🏰 (達成)

基本事業02 駅・駅周辺施設の整備

指標	駅・駅周辺施設の利用者満足度（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【都市計画課】	75.4	69.3	71.1	78	☔ (低下)
評価	前年度の実績値に比べ約1.8ポイント増加している。三郷駅前広場について、整備着手に至っていないがグリーンシティケーブルテレビの新社屋完成に伴うにぎわいの創出及び旭前駅改良工事完了したことが要因と考えられる。					対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業03 交通バリアフリーの推進

指標	駅のバリアフリー化率（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【都市計画課】	50	75	75	75	☁ (横ばい)
評価	平成29年度に旭前駅改良工事を実施したことで、市内4駅のうち3駅がバリアフリー化となり、平成28年度に比べて25ポイント上昇。平成30年度の目標値は達成している。					対 前年度
						☁ (横ばい)
						目 標 達 成 度
						🏰 (達成)

基本事業03 交通バリアフリーの推進

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	歩道のバリアフリー化実施箇所数（箇所）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【土木管理課】	275	329	355	317	☀ (向上)
評価	H30目標値を達成している。 下水道課の舗装復旧工事と同調して段差解消を行った結果であり、今後も引き続き歩道バリアフリー化事業を実施していく。 歩道スロープ改良工事実施箇所数：26箇所					対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達 成 度
						☀ (達成)

基本事業03 交通バリアフリーの推進

指標	道路段差に不便を感じる市民の割合（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【土木管理課】	28.6	28.1	25.7	27	☀ (向上)
評価	目標値を達成している。 段差解消対策を進めた結果であり、今後も引き続き歩道バリアフリー化事業を実施していく。					対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達 成 度
						☀ (達成)

基本事業04 幹線道路整備の推進

指標	自動車での幹線道路利用による満足度（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【都市計画課】	79.8	78.9	73.4	80	☂ (低下)
評価	前年度より5.5ポイント低下した。これは、霞ヶ丘線と接続する山の手通線（名古屋市施工分）が未施工のため、結果として暫定供用開始となったことが主原因と考えられる。 平成31年度指標は幹線道路補修により、成果指標は増加見込である。					対 前年度
						☂ (低下)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業05 生活道路の整備と維持管理

指標	市民により生活道路等が維持管理されている箇所数（箇所）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【土木管理課】	14	14	13	16	☂ (低下)
評価	前年度と比べ、実績値（H30）が1ポイント減少した。これは、長年に渡りアダプトプログラムとして道路の維持管理を続けてきた市民団体の1つが活動を辞退したことが要因である。					対 前年度
						☂ (低下)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業05 生活道路の整備と維持管理

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	道路管理の瑕疵により損害賠償の対象となった件数（件）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
		【土木管理課】	0	0	0	0
評価	基準値どおりであり、目標値を達成している。しかし、指標の性質上、今後も目標を達成できる（管理瑕疵事故が発生しない）とは限らない。	(件) 				対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達成度
						🏰 (達成)